


 書評

和田 健 著

せん妄の臨床

リアルワールドプラクティス

山田了士

病院で死を迎える人が 8 割以上にも上る時代である。身体的に重症な患者が多ければ、せん妄は頻発する。特に高齢入院患者の多い今日では、せん妄はもはや common disease のひとつとであるとも言えるだろう。総合病院においてだけでなく、高齢者を対象とするあらゆる臨床場面において、せん妄の評価や治療は精神科医の必須の業務である。では、せん妄は本当に適切に治療されているのだろうか？ リスペリドンやクエチアピン、あるいはハロペリドールの処方をして一丁あがりとはなっていないだろうか？ 薬効がなかなか得られず、嚥下障害を併発して、看護者からの冷やかな視線に汗をかいたことはないだろうか？

不思議なことに、せん妄について医師向けに日本語で書かれた成書はこれまでほとんどなかった。日本総合病院精神医学会による「せん妄の治療指針」がほぼ唯一のものだが、出版されてからすでに 7 年が経過しており、その間新たな知見の集積や治療薬の登場があったことから、アップデートされた知識の集大成が望まれていた。著者・和田健による本書はそのような要望に応えるべく登場したものである。著者は広島市民病院をはじめとした臨床活動のみならず、日本総合病院精神医学会でも理事として数々の重要な役割をこなしながら総合病院精神医療に大きな貢献をなしている精神科医である。せん妄の臨床においてもいまや斯界の第一人者といつてよいだろう。

本書は理論編、実践編、症例編の 3 部に分かれている。理論編では古今の知見を体系的に網羅しており、混乱しがちな知識の整理のためにも価値が高い。実践編、症例編では著者の豊富な臨床経験から得られた貴重な症例の数々を通して、実践的なせん妄への対処法が語られる。そして症例編では clinical questions を配して、読者への理解を助ける配慮がなされている。まさに副題のリアルワールドプラク

ティスの面目躍如である。

また、本書の各部に挿入されたコラムでは、総合病院精神医療の持つさまざまな問題について著者の意見の数々が示されている。せん妄診療の重要な役割を担うべき総合病院精神科には矛盾や無理があふれ、経済的な立場も弱い中で、現場の医師の努力によって支えられている。しかし著者は単にそれを嘆くだけでなく、日頃からの建設的な活動を通して着実な改善を目指す姿勢をみせている。これらのコラムにはそういった著者の熱意がよく現れている。

せん妄の治療の要点は直接原因や誘発因子の同定と除去であると、繰り返し著者は述べる。これは当たり前のことなのだが、ついつい薬物療法「だけ」で何とかしてしまいがちな精神科医にとって、肝に銘ずべきことである。通り一遍ではなく、プロとしてせん妄の治療に当たるということは、原因・誘因の謎解きをし、たくさん引き出しから適切な施術を選び出すということである。そのためには他科のスタッフとのコミュニケーションの上に成り立つ情報収集がとりわけ重要だが、他科の病棟に赴いた精神科医というのはアウェイ感覚が強く、遠慮がちに聞き取りに終わることも多い。しかし、適切かつ実践的な説明を挟みながら状況を聞けば、必ず看護スタッフは乗ってきてくれるものである。本書にまとめられた系統的な知識と数々の症例における著者の思考過程を学んで臨んでほしい。きっと病院コミュニティの中で信頼される精神科医になって頂けることと思う。本書が世に出たことに感謝し、病院で奮闘する若い精神科医だけでなく、彼らを指導する立場の先生方にも強くお勧めしたい。

(川崎医科大学精神科学教室)

●B5 判 191 頁 2012 定価 4,410 円(本体 4,200 円+税) 新興医学出版社